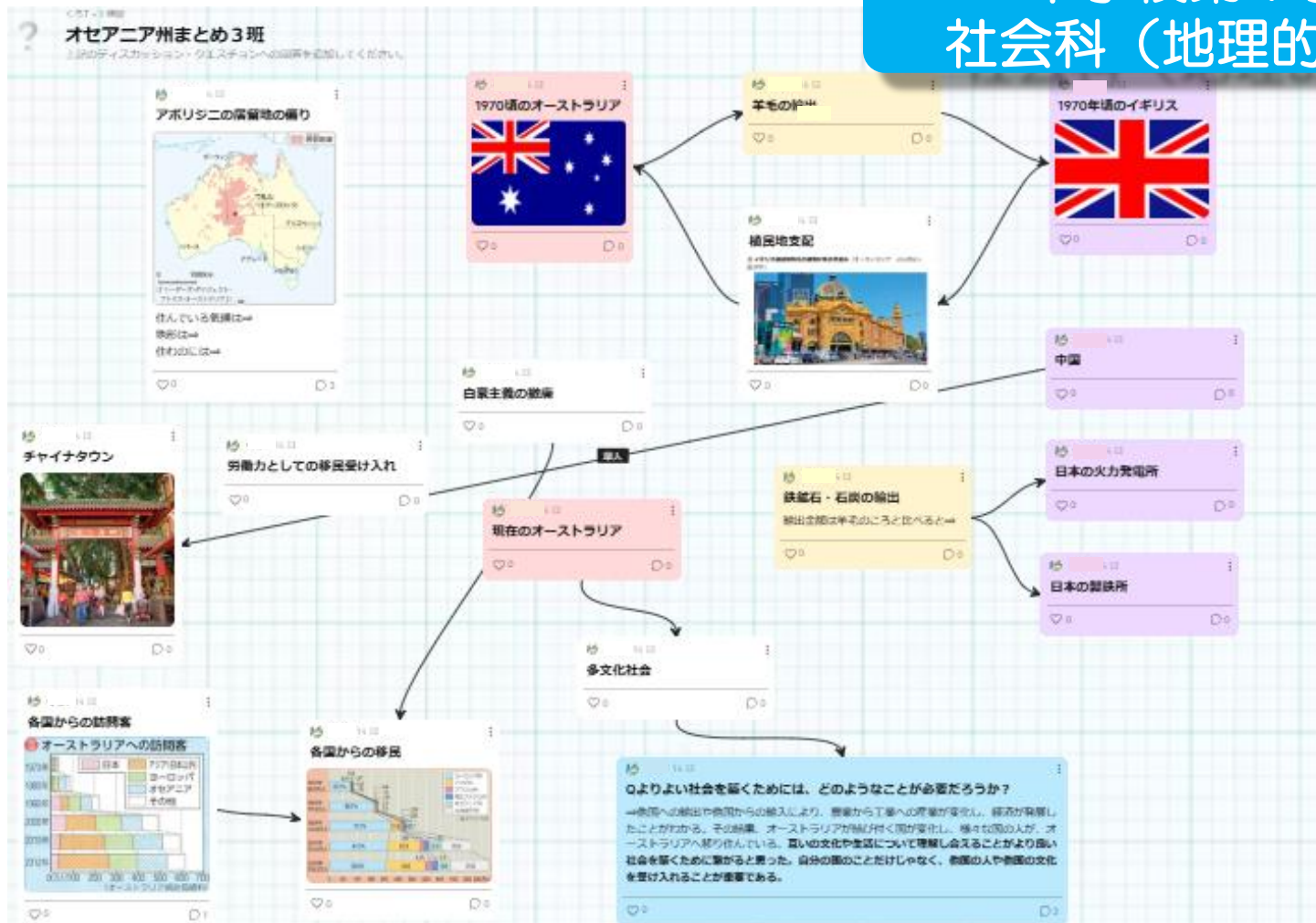


中学校第1学年
社会科（地理的分野）



グループで共同編集を行うとともに、クラウド上で共有した他のグループの意見を参考にし、考えを深める。

中学校第1学年
社会科（地理的分野）



今までの学習を、因果関係などの関係性を矢印でつないだり、コメントを書いたりして、構造化することで、オセアニア州の学習を概念的に理解する。

中学校第1学年 社会科（地理的分野） 「オセアニア州」

■単元の目標

オセアニア州に暮らす人々の生活を基に、オセアニア州の地域的特色を大観し理解するとともに、オセアニア州で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。

■単元の概要

オセアニア州の学習では、貿易や多文化社会に関わる課題をテーマとする。地域で見られる社会的事象に着目し、地図などの資料から地域的特色を理解するとともに、貿易品目や貿易相手国などの諸資料から、多文化社会の形成の背景について考察し、よりよい社会の実現についてまとめ、表現する活動を行う。

■単元の指導計画（3時間）

中単元「世界の諸地域」では6つの州を、各テーマに基づいて学習していく。本小単元は、中単元の3つ目の州に位置付き、3時間の構成で学習する。以下は各時間の学習課題と地理的な見方・考え方を働かせるための中心となる問いである。

第1時 「オセアニア州のようすをみてみよう」

- ・オーストラリアの人々はどのような場所で生活しているのかを調べ、関心を高める。

第2時 「オーストラリアはどのようにアジアとの結び付きを強めたのだろう」

- ・オーストラリアの貿易相手国の変化を調べる。
- ・オーストラリアの地下資源はどこで採掘されているかを調べる。

第3時 オーストラリアの鉄鉱石や石炭はどのように使われているのだろう。

- ・日本で鉄鉱石や石炭がどのように使われているか調べる。
- ・これまでの学習のまとめとして、オセアニア州では、どのように多文化社会が形成されていったかをまとめる。

■小単元の概要

・写真や気温と降水量のグラフを基に、オセアニア州の地域的特色をつかみ、白地図に書き込む作業を行う。また、オセアニア州の貿易と多文化社会に関する問いを教師が設定し、生徒が問いに対する予想を立て、次時への学びの見通しを持つ。

・前時の振り返りシートの記述から、生徒の疑問や興味関心を捉え、教師が次時の学習に生かす。オーストラリアの貿易相手国の変化や、鉄鉱石や石炭の採掘に関する資料を提示し、他国とのつながりについて考察する。

・オーストラリアから鉄鉱石や石炭がどのように日本や他の国に輸出された後、生活においてどのような活用されているのか、Padletのマップで位置を把握し、RESASで生産量のデータを確認し、地理院地図で製鉄所の写真等を活用して考察する。

・単元のまとめとして、オーストラリアと周辺国との結び付きの変化から地域的特色について考察する。Padletに示された、オーストラリアに関して学習した地理的事象を矢印（→）で結び付けて構造化し、概念的に理解する。その上で、よりよい社会を築くためには、どのようなことが必要なのかを考察する。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現できている生徒の姿（第3時）

【学習活動の場面】

オセアニア州のまとめとして、オーストラリアと他国との結び付きの変化から地域の特色について考察する。Padletに示されたオーストラリアに関して学習した地理的事象を矢印（→）で結びつけて構造化し、多文化社会であるオセアニアの特徴について理解した。さらに、オセアニア州において、よりよい社会を築いていくためには、どのようなことが必要なのかを考え、説明する活動を行った。

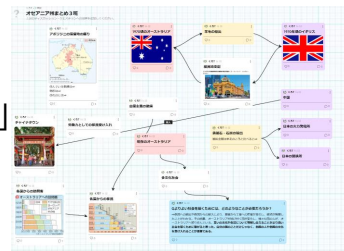
【生徒の「深い学び」の姿】

Padlet上の地理的事象を、矢印でつなげる場面の生徒の様子

- A「国旗を見ると、オーストラリアはイギリスの植民地だったとわかるね。」
B「アボリジニが住む場所が偏っているのは、イギリスから独立した後に白人を優遇した白豪主義政策が関係しているんだよね。」
C「1970年代はイギリスへ羊毛の輸出が多かったけれど、今は、鉄鉱石や石炭の輸出で、距離の近い中国との結び付きが強くなっているね。」
D「そうだね。だから中国からの移民も多くなっているね。」
A「チャイナタウンやイギリスの街並みが残っている理由がわかったね。」

4人の生徒は、地理的な見方・考え方の「空間的相互依存作用」の視点を働かせて、地域的特色や課題についての理解を深めた。

- A「中国だけでなく、日本を含めた様々な国の人が移り住んでいるんだね。互いの国の文化や違いを知り、共生していくことが大事だね。」

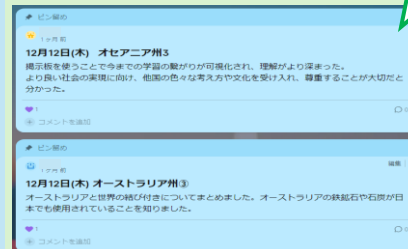


【当該指導での「深い学び」】

オーストラリアで見られる多文化社会という特色が、他国との結び付きやその変容によって形成されたことを、Padletを活用して構造化し、生徒同士の対話を通して、地理的事象を視覚的に整理することで概念的に理解することができた。その後、新たな問いとして、よりよい社会の実現に向けて、どのようなことが必要か話し合った。なお、Aは、まとめとして以下の記述をした。

新たな問い よりよい社会を築くために、どのようなことが必要か

⇒農業国から鉱・工業国へ産業が変化し、経済が発展したことが分かった。オーストラリアが変化したことにより、オーストラリアと結びつく様々な国の人が、オーストラリアへ移り住んでいる。植民地時代、先住民のアボリジニが迫害されたことを教訓にして、互いの文化や生活について理解し合えることがよりよい社会を築くことにつながると思った。また、自分の国のことだけでなく、他国の人や他国の文化を受け入れ共生していくことが重要だと思った。



【活用したソフトや機能】 RESAS、地理院地図、Padletの掲示板

■指導上の工夫とICTの利活用

- ①これまでに学んだオーストラリアの地理的事象をRESASのデータや地理院地図の写真を端末上で確認する。

* グループで共同編集を行う。個々の作業に終始することのないよう、事前によく相談してから、作業に入る。

- ②Padletでの共同編集を対話を通して行う。

* 一度つなげた矢印は、取り消すこともできる。対話の中で吟味し、試行錯誤をしながら、学びを整理することで、知識を構造化していくことが可能になる。

- ③まとめを記述する際、他のグループの意見もクラウド上で確認し、比べ合うことで内容を吟味する。必要に応じて、他のグループと交流を行う。

* グループの中で話し合うだけでなく、他の班の意見を参考にしたり、記述の視点のずれがないかを確認し、グループとしての記述を完成させる。

学習指導要領や解説との関連
学習指導要領 第2章 各教科
第2節 社会 第2〔地理的分野〕

2 内容

B 世界の様々な地域

(2) 世界の諸地域 ⑥オセアニア州

ア

(ア) 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解すること。

3 内容の取扱い

(2)

イ 地図の読図や作図，景観写真の読み取り，地域に関する情報の収集や処理などの地理的技能を身に付けるに当たっては，系統性に留意して計画的に指導すること。その際，教科用図書「地図」を十分に活用すること。